

安心の基本素材「耐熱ガラス」。

100%天然の鉱物を精製した、地球にやさしい素材の「耐熱ガラス」。熱に強く、酸にも強く、電子レンジで使える特性がある優れたガラスです。素材の安全性を向上させるため「HARIOの耐熱ガラス」は、製造過程で発生する泡を残さないようにするための、泡きり剤も100%「天然塩」を使用しております。亜ヒ酸やアンチモンといった重金属を一切使用しておりません。また、ガラスと組み合わせるプラスチック素材についても、電子レンジで加熱をしても環境ホルモンの出ない素材を使用しています。さらに、ガラスにプリントする白のインクは無鉛インクへ切り替えています。

HARIOは安心・安全素材であるガラス「耐熱ガラス」を生かしたモノづくりを続けてまいります。



煙突のない工場。

HARIOの耐熱ガラスは1972年以来「煙突のない工場」で生産しています。「煙突のない工場」の実現は、ガラス原料を重油でなく電気によって溶かす、独自の技術開発の成功によるものでした。当時のガラス工場といえば煙と粉塵の害がひどいといった常識を変え、工場隣接の環境を乱すことなく、また中で働く社員に対しても配慮した職場環境を生み出しました。



日本最初の直接通電式ガラス溶融炉の開発の成功により、HARIOの工場から煙突がなくなりました。

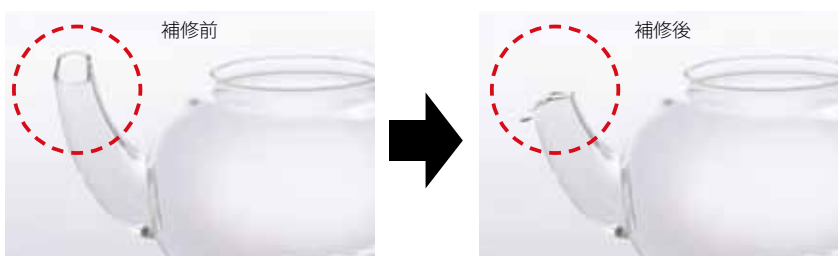
(古河工場、HARIO 物流センター全景)

ISO9001 ISO14001
OHSAS18001 認定工場

もったいない「MOTTAINAI」主義は40年以上前から。

日本の美德をあらわした言葉「もったいない」。ノーベル平和賞を受賞したケニアの故ワングリ・マータイ氏は、この言葉に感銘を受け2005年3月国連女性地位委員会で出席者全員で「もったいない」を唱え話題となりました。

HARIOではこの「もったいない」の思想は40年以上前から唱えています。サイフォンやハリオール等「ガラスボールが割れた」「茶こしがよごれた」場合に部品を交換して使う考え方です。また、地炉利やドナウ等、高額な製品が部分的に割れてしまった場合にガラスの補修サービスもおこなってまいります。「直して、生かし、長く使う」当たり前のことを、当たり前。アフターサービスを考えた物づくりはこれからも続けてまいります。



*割れた部分を切断して注ぎ口を作り直すため、注ぎ口の長さは少し短くなります。